

海 (かいし) 市

No. 38

● 詩

02 横山 仁 生活の柄 (31)

06 前田 勉 小祥

● エッセイ

08 細部俊作 本をひらく (3)

11 佐藤ただし 水田とツバメ (36)

14 横山 仁 雑記 (38)

生活の柄(31)

横山 仁

YouTubeをみながら

キュウリの辛子づけをつくる

「鬼^{*}からし」は 賞味期限がきれているが

なに かまうもんか

からはカナダ産 着色料はうこん

ほかに 食塩と砂糖

(こだわって恵安の潮と きび砂糖だ)

ことしは もろきゆうなしで こればかりだな

料理番組が終わってながれてきたのは 立花孝志氏
既存のメディア(テレビ・新聞)がでっち上げで齋藤
元彦・元兵庫県知事をいじめているので(メディアアリ

ンチ）真実を拡散すべく兵庫県知事選挙に立候補した
という

おそまつな百条委員会

つづいて

「【L I V E】WHOから命を守る国民運動9・28国民
集会パレードデモ有明」

世界的な医者も多数応援に駆けつけた

日本人を実験台にした 世界初のレプリコンワクチン
(もどき)

(「3発目の原爆【レプリコンワクチン】が日本人に投
下されようとしている」林千勝氏)

うつるから(シェディング) おれに近づくな

♪レプリコンは明治

さらには 「深田萌絵TV」

「12月14日締切！住宅密集地の長崎大でエボラ研究開
発に反対パブコメ」

政治家のクズ（山口敬之^{**}氏の口まね）

官僚のクズ

医師会のクズ

製薬会社のクズ

おれもその……

十一月二十日

「破壊と再生」を司る冥王星が水瓶座に入った

これからは

大きな変革をもたらす

「風の時代」にうつるといふ

消費期限の切れた売国者たちも淘汰されるだろうな

* 「鬼からし」は山清の登録商標です。

* * 「気分が悪くなる人もでているけれども、やむをえず、石破、岸田、岩屋などの写真を出すことをお許しください」というのは「山口敬之チャンネル」。

小^{しょう}祥^{しょう}

前田 勉

ひっそりと

可聴域内で高周波音が流れ続けている

数えはじめたときから

少しずつ増幅されてきたのかもしれない

カーテンに付着していく

浮遊する一本の繊維 塵 に似て

非在 ただここにいるだけでいいのに
そのことに霜の降りる季節がざわめく

ものが蘇生し波打つことを
もう思つてはいけないのだろうか

初めて到達した時間ときの巡りを
哀しんではいけないのだろうか

小さなさいわいだと

この文字は語る

問わず語りをする老人に
言葉を掛けてはいけない 少年よ

独り頷きながら言葉に圧されている姿を
見てはいけない 老人よ

本をひらく (三)

細部 俊作

「オーバーストーリー」

(リチャード・パワーズ 木原善彦訳)

この小説に登場するのは……庭の一本の栗の木を、何代にもわたって、毎月撮影してきた一族の末裔、中国の漢詩を書き写したものを残して自死した男の末娘、ベトナム戦争従軍中に搭乗機が撃墜されたが運よく樹木に引っかけた命拾いをした男など、様々な生い立ちや経験をし、異なった人生を歩んできた者たち九人。彼らは自ら選んで、または引き寄せられるようにして、森や樹木のある場所へ近づいてゆく。何人かはアメリカ最後の原生林伐採地での身体を張った抗議活動

に加わり、ある者は樹木のミクロの世界に入っていく。その形は違っても国家権力の壁を知ることになる。そんな彼らは二〇年後には偶然の接点をもつ。

アメリカの原生林や森林の保護運動が高まりを見せたのは一九九〇年代だという。この小説には、その運動のなかに自身のアイデンティティを見出そうとした人たちが描かれている。一方、本を通じて樹木の世界に興味を深める者たちも出てくる。一人だけ科学の道を行く樹木学者は、樹木同士がコミュニケーションをとっていることを突き止めた。彼女は他の研究者からの非難の的になったが、孤独な旅先で自由な研究に没頭する日々を得る。彼女は森の土壌の中の菌類のはたらきで、樹木同士が影響を与え合っていることや樹木が人間に何らかの働きかけをしていることにも気づく。この小説で樹木学者が発見したという内容は、今では「しゃべる植物たち」として広く知られているようだ。虫が木の葉を食い始めると、木は自分の身を守るため葉に殺虫成分を分泌して虫を去らせようとする。そして周辺に警告を発すると、それを感知した木は、虫が来る前に同じ成分を葉に分泌して防御態勢を

とる。こうして木はネットワークで結ばれ、森全体が免疫システムを共有しているという。この様子が映像になっているのを見つけた(※)。殺虫成分が色を得て動いたり、葉から外に出た伝達成分が浮遊していくというもので、樹木の能力の不思議さと科学の進歩には目をみはった。同時に、自分がこれまで登ってきた山々に広がる森林を思い描いて、その木々も葉も、同じような営みをしていたのかという素朴な驚きを覚えた。また、文中には「個別に生きている木は存在しない」「彼らの生はずっと前から地下深くでつながっている」とあった。それは樹木のことではあるが、登場人物たちを指しているのだろうし、ほんの少し人間のことであるのかもしれない。

樹木学者は、人は有用性でしか木を見ていないという。「私たち人間の世界の中に木があるのではない、四〇億年も生きてきた樹木の世界の中に、つい最近現われたのが人間だ。私たちは木をお金で見たりするが、近年、樹木は、熱く乾燥した一年によってダメージを被っている。頻発する山火事、伐採されていく森林」。著者はその様子をみて「助けを求めている」のはだれ

か？ それは「人間だった。あらゆるものからの助けを」と書いた。

いまでも地球のどこかで森林が(虫にかじられている葉のように)警告を出し続けているのだろう。森林の消失とともに、地球が温暖化や気候変動でますます危なくなっていくことは確かだろうから、まさに人間こそ助けを求めているというわけだ。心理学者は「樹木はきつと世界を救う。私たちがいなくなった後で」(傍点は引用者)と、樹木の方を主語にして、当の人間が不在のディストピアの到来をイメージする。樹木にとって人間はいなくてもいい存在だが、人間にとって樹木はなくてはならない。しかし、人間が森林破壊をやめないのなら、「人間は樹木から相手にされなくなる」。

樹木からの問いかけ……明日の世界のため人ができる唯一最善のことは何か。

数多くの樹木、数多くのエピソードがこの小説には出てくる。人が木に変身する神話やアメリカ全土にわたって胴枯病でほぼ全滅した栗の木のこと、樹齢六世

紀を超えろというダグラスモミは六〇メートルの高さにもなり、ベイマツ（米マツ）ともいわれることなど、今まで知らなかった樹木の世界を歩いた気分になった。

印象に残った場面にこんなものがあつた。ある夫婦が庭に名前も知らない木を何本も植えてきたが、夫が脳卒中で寝たきりになると、妻は介護の傍ら、二人で植えた木々の名を調べ始めた。ある日、目の前の木が「ストローブマツ」だと知ると、その木に関する話を集めて夫に読んで聞かせる。新大陸に殺到した英国人が、巨大な軍艦や旅客船のマストの用材にしたのがこの木だった。すでにヨーロッパの山は伐りつくされていた。人びとは新大陸でその森を見つけては大量に伐り倒す。豊かな木の大木が繁栄に屈服する話がそれから始まった。一七〇一八世紀に展開された三角貿易では、北米から「ストローブマツ」をギニア海岸へ運び、そこから奴隷を西インド諸島へ、そこから砂糖とラム酒を北米ニューイングランドへという路が成立していた。線路の枕木、戦艦や捕鯨船なども作られた。名も知らずに育てたその木を呼んだら、陰からアメリカの

歴史の数ページが目の前に開かれていくかのようだ。そのときの二人の興奮を、自分も味わったように思った。

※（一）NHKスペシャル「植物たちは『おしゃべり』をする能力が！？」「超進化論」。

（二）ガリレオX「植物が会話する？匂いが伝えるコミュニケーション」では、一九八三年、仮説として「トーキングプラント説」が発表されたが、学会の批判を受けて研究は下火になった。二〇〇〇年から科学者有志が研究、実験を重ねて可視化することができたことが説明されている。

*新潮社 二〇一九年（令和一年）一〇月刊

二〇一九年ピューリッツァ賞受賞

水田とツバメ（三六）

佐藤ただし

・成果物と神様

一二月も半ばを過ぎ、ストーブを欠かせない季節になってきた。朝からムクドリが電線に二〇羽くらい静かに止まっている。隣家の渋柿が熟し、ムクドリは気が向いたときにその実を食べることが出来るせいかなどこかゆつたりとしている。生き物にとって食べ物に事欠かないという状態は争いもなく平穏だ。

稲や大豆の収穫も終わり、あとは雪が降る前に畑の片付けしなければならない。サツマイモやナガイモは収穫して新聞紙に包み、凍らないように家の中に入れた。サトイモは皮を剥き、袋に入れて冷凍した。ダイコンやハクサイ、ネギはまだ畑にあるが、ニンジン

は畑に穴を掘って貯蔵した。こうしておくとか来年の三月頃までは大丈夫だ。

畑のサツマイモやサトイモを掘っていると、こうした植物は、静かに土の中で子孫を育て、言葉のない世界で時を過ごしているということを改めて知る。人も言葉を持たない時代が長くあったという。そうした時代は植物や動物とも言葉以外の方法で交信していたのだろうか。言葉を持ち、道具を使うように進化し、いつしか人だけが地球から浮いてしまったような昨今だ。人は物事を比較する生き物だと、鈴木秀夫は述べている。それが人類を進化させた要因でもあるが、また一方で争いの原因にもなる。土の中に埋もれていたサトイモたちは大小、形も様々で、お互いを比べようともせず、また争うこともなく共存している。

今年は稲の出来はまずまずで、畑の作物も昨年より良かった。予想以上のものが収穫できると、何かに感謝したい気持ちになる。我が家の床の間には大黒様や恵比寿様、お稲荷様など幾つかの神様が並んでいる。暮らしを少しでも良くしたいという願いがこれらの神

様を祀ってきた理由の一つだろうが、身近に食料を手に入れることが可能な、豊かな土壌や河川といった、風土を持つていることも見逃せない。神様が優劣なく笑顔で並んで置かれているというのも好ましい。

農耕が天候や家族の健康など、多くの要素と結びついてゐるため、それぞれの神様と結びつきが深いということだろう。

・晩秋

前号（「海市」三七号）で少し書いたが、今年の五月に裏山の沢の田んぼで田植えをしていた老夫婦が、今年で稲づくりをやめるため、代わりに田んぼを作ってくれる人を探しているという話を聞いた。高齢であることと、春に苗を思ったように作れなかったことが理由のようだ。

一〇月に入り稲刈りの最終日、その老夫婦の田んぼの稲刈りをするようになった。昨年まで使っていたコンバインの調子が悪く、私が加入している法人に稲刈りを依頼したのだった。コンバインに乗ってその沢

に行く、細い体に紺色のつなぎ服を着て長靴を履き、鍔の付いた作業用の帽子を被って祖父さんは私たちを待っていた。

その沢の入り口は横幅が七十メートル位で両側に農道が作られ、田んぼは小高い杉や雑木に囲まれ、段々の棚田になっていた。約二ヘクタールの田んぼは一〇枚に区画され、農道や畦畔の草はきれいに刈られていた。

二台のコンバインで田んぼに入って稲刈りをしている間、祖父さんは手で刈った稲の束を運んだり、落ちていた穂を拾って作業の手助けをし、あるいは畦畔の端に腰を下ろし、今年で最後になる稲刈りを眺めていた。やわらかい日差しが午後の山あいの棚田一帯に広がり、たくさんの赤トンボが空中を静かに行き来していた。

一二月末のある日、散歩を兼ねて老夫婦が作っていた沢の田んぼを見に行った。家の近くを縦断している県道を横切り、三〇〇メートルほど沢に入ってゆくと右側にその田んぼがあり、山際に平屋の作業小屋が小さく見えた。

休眠し英気を養う。

山の縁の農道を歩いて行くと、のり面や農道、そして畦や土手の草はあまり伸びていなかった。また、段差のある畦畔に沿って排水路を作っており、農道側の排水口まで、スコップで泥上げをしてあった。棚田は上の田から染み出た水が下の田んぼに出て乾きにくいからだ。その他にも四隅に溜まった水を下の田んぼに落とすための配管を取り付けていたり、細かい工夫をして田んぼを作っているようだった。稲刈りが終わった後、コツコツとスコップで泥を上げ、畦のふちに盛っておいたのだろう。この親父さんの稲作りは今年で終わるのだろうが、来年、ここで田んぼを作る人が仕事をしやすいように、今までと変わらずに手入れをしていたようだ。

田んぼは稲刈り後に生えたひこばえも少しずつ枯れてきていた。山の樹々も小鳥の群れが舞い降りるように急いで葉を落としていた。土の中の微生物は気温が下がると活動が鈍くなる。農家は稲刈り後になるべく早めに田んぼを起こし、稲株や地表の草を土の中に入れて、微生物に触れさせておく。そうして土は来春まで

雑記 (38)

横山 仁

8月30日付けの秋田魁新報に、「秋田大学教育文化学部発」 「ジェンダー」4という記事があった。タイトルは「死してなお生きつづける アンネ・フランクが抱いた望み」とあり、執筆は中村寿氏（秋田大学教育文化学部講師）。もともとは、「アンネ・フランクが抱いた望み」だけがタイトルで、「死して〜」は、魁で勝手につけたものではないだろうか。それとも、副題で作者がつけていたものだろうか。

いずれにせよ、「アンネの日記」は戦後に書かれたというようなことをきいていたので、何を書いているのかとみてみた。

《アンネ・フランク (1929～45年) は「日記」をオランダ語で書いたが、その実情はアムステルダム在住

のユダヤ系ドイツ人亡命者だった（イスラエル建国は48年）。彼女は日記に「紙は人間よりも辛抱よい」（42年6月20日）というドイツ語のことわざを記している。このことわざは、「書き手は書いたことの真偽に責任を負う必要はなく、聞き手の感情に配慮する必要もない」ということを意味する。紙は人間と異なり、書き手の話を遮らないということだ。》

このことわざの解釈では、いまのマスゴミ（ゴミに失礼だ！）といったのは、ワレさんだったか？）のように「プロパガンダ」を量産して国民を洗脳しても責任をとる必要がないという意味のようにとれる。そんなはずはないのでは、とおもい、ネットで調べてみると、二、三あったが、標準的なものは以下のようなものであった。

《さて、ドイツ語のその諺の意味は「紙は何を書かれても文句を言わない」、つまり、書かれていることが真実かどうかはわからないし、政治家のマニフェストならば実行されるとは限らないといった具合であ

る。》

《というわけで、「紙は人間よりも辛抱強い」
(en: 'Paper has more patience than people' ,
nl: 'Papier is geduldiger dan mensen') は「人が聞
いてくれないようなことでも、紙になれば書き綴るこ
とができる」という意味で、このオランダ語のフレー
ズでの初出は『アンネの日記』かもしれない。グズッ
でもアンネの日記のフレーズだとして出てくるのがほ
んどである。》

これだと、わからなくはない。よもや、中村寿氏は、
じぶんの文章について、「書き手は書いたことの真偽
に責任を負う必要はな」いといっているわけではない
だろうな。

つぎに見たのが (8月23日) 「ジェンダー」3、畠
山研氏 (秋田大学教育文化学部講師) 『『ダロウェイ夫
人』が描いた現実』。これにも「物言わぬ『人形』で

はなく」というのが横組みでついているが、これも魁
がつけたものだろう。

《来年で出版から100年経つ『ダロウェイ夫人』だが、
その上に塵芥が積もるときをまだ誰も知らない。》
よく分からない文章だ。

*

「熊本の水を中国から守れ！工場のインチキを暴く
リーガルアクション！」というのは、深田萌絵事務局。
10月6日 (日)

熊本県へのTSMC誘致にかんしては、いろいろ問
題があり、第二の水俣病か、ともいわれている。

(引用開始)

《熊本県は半導体工場JASM第二の住所も非公開！！
私たちの税金7260億円も払って、住所すら国民に
知らせない。

それどころか、毒物、発がん物質、毒性の高い化学物

質を TSMC、JASMA、熊本県は「非公開」としています。ソニーセミコンに至っては、フッ素化合物という猛毒を排出していることを令和四年から隠ぺいしていました。

もう、これはリーガルアクションを取るしかない！と思ったけど、自分たちで書いた書面は素人なので限界があります。そこでプロに頼もうと思います！費用が集まれば弁護士に頼んで訴訟、少額であれば行政書士を通じて開示請求を行います。

弁護士、行政書士などの法務費用を応援してもらえませんか？》

(引用終わり)

また、多量の水を消費するため、農家に影響がでているようだ。

【熊本危機】TSMC一社が使う水で菊陽町の水が枯渇？町民不安を新聞報道

<https://www.youtube.com/watch?v=Ejb6spYB0lqU>

ついでに、三井化学がインチキな種を売った話など、語られている動画を。

タネを守ろう！！ 自民の農家苛め「種子法廃止・種苗法改正で日本は○○に！」

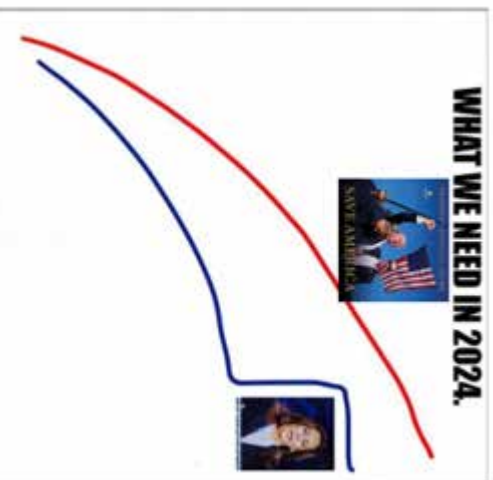
元農水大臣山田正彦 × 深田萌絵 No.154

<https://www.youtube.com/watch?v=fjwk0FMtapw>

*

11月のアメリカ大統領選挙は、トランプの勝利に終わった。もつとも、来年の就任式までなにがあるかわからないという。つまり、また暗殺などがあるかもしれないということだ。

今度も、前回の不正選挙のような「バイデンジャンプ」があるのではといわれていて、一部あったようだが、トランプの人気はそれをうわまつたか。(次ページ画像参照)



(引用開始)

<http://iiyama16.blog.fc2.com/> (「文殊菩薩」)

ロバート・ケネディ Jr. が水道のフッ素除去

ケネディが水道からのフッ素除去を公約

トランプ大統領が誕生すれば、ロバート・ケネディ Jr. が保健衛生部門の長官に任命されるそうで、これこそ適材適所だ。

ケネディが手始めに着手するのは、全米の水道に虫歯予防として混入されている、フッ素を除去することだそうである。

ケネディによれば、フッ素は少量であっても幼児の脳にダメージを与えるので、虫歯予防のメリットよりデメリットが大きい。

日本でも米軍基地から上水道に垂れ流される PFAS や、歯磨き粉に必ず入れられているフッ素の除去を願うばかりだ。

また、ケネディが政権に入れば毒ワクチンの見直しもするだろうから、日本での毒ワクチン接種も中止になるかもしれない。

当ブログは、コロナ前からロバート・ケネディ Jr. の反ワクチン運動を日本で紹介してきたので、彼の政権入りに期待大である。

野崎晃市（50）

ケネディの逆襲が始まる

ケネディがFDA 解体に言及

ロバート・ケネディ・Jr. がさっそく仕事を始めたらしく、米国食品医薬品局 FDA を解体すると発言し、FDA 職員に去るよう告げた。

FDA は十分に臨床試験がなされていないコロナワクチンを緊急承認する一方で、イベルメクチンやクロロキンの使用を禁止した。

ロバート・ケネディ・Jr. が毒ワクチンの追及をすれば、トランプは自身の責任を問われることなく、ワクチン

政策を修正できる。

そこで、五つの製薬会社 CEO が緊急会合を開き、ロバート・ケネディ・Jr. の毒ワクチン追及への対応策について話し合ったという。

ケネディさんには、ぜひ日本でもワクチン接種の見直し、CDC 日本支部建設中止、製薬会社の責任追及をやってほしい。

野崎晃市（50）

（引用終わり）

同じく、野崎晃市氏より <https://ameblo.jp/yamatokokoro500/entry-12874694865.html>（11 月 22 日）

（引用開始）

前米国疾病予防センター CDC 所長ロバート・レッドフィールドが、コロナウイルスは米国で生物兵器として造られたものと発言した。

ニュース・ウイークのような大手が報じているから、
トランプがケネディを HHS 長官に指名したことで、
潮目が完全に変わった。

(引用終わり)

さて、属国日本の人殺し厚労省は、どうなることやら。
また、普通の風邪を 5 類感染症にして、金儲けを企
んでいるようだが。

ところで、バイデンがウクライナによるロシア攻撃
を許可したという。

以下、へっぴり ごしさん。11 月 12 日。https://
ameblo.jp/yamatokokoro500/entry-12874694865.html

(引用開始)

【HAL Turner Radio Show】記事より ↓ ↓ (Microsoft
翻訳)

***** 速報 ***** 緊急 ***** 米英が海底インターネット
ケーブルを爆破へ (中略)

狂人が今や政府を掌握しているようで、彼らはドナル
ド・トランプがホワイトハウスに入る前に第三次世界
大戦を始めようとしている。

情報筋によると、彼らはトランプが大統領職に就く前
に戦争を始めれば、トランプは戦争に縛られ、戦争を
避けることは不可能になると考えている。

彼らは世界経済を崩壊させるために戦争を必要として
おり、それによって米国と英国の債権者に対して「我々
の経済は破壊され、国民は死に、我々が負っている数
兆ドルの負債を返済することはできない、債務免除が
必要だ」と言うことができるのだ。

(引用終わり)

《「元の自分に戻りたい…」という MBS のコロナ
ワクチン後遺症報道》を紹介するのは、へっぴり

ご し さん <https://ameblo.jp/yamatokokoro500/entry-12874453389.html>

(引用開始)

【新型コロナウイルス後遺症】元看護師は車いす生活に「元の自分に戻りたい…」 元消防士「23kg痩せ、心の病といわれた」『治らない』後遺症の現実
MBS NEWS 2024/11/ 09https://www.youtube.com/watch?v=8RS_jiUqf0 (11月10日)

2020年から世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス。新型コロナウイルスの対策としてコロナワクチンの接種が推奨され今年4月時点で接種回数のはのべ4億回以上となっています。

ただその一方で倦怠感などワクチン後遺症の救済認定件数は8300件を超えています。今も苦しみ続けている『治らない後遺症』の現実取材しました。

“元の自分に戻りたい” ワクチン後遺症で車いす生

活になった女性

イスに座りながら片手で料理をする女性。倉田麻比子さん、42歳。

(倉田麻比子さん)「(Q左手なんですか?) 右手は重たいので、この2本しかちゃんと使えないから」

奈良県で夫と娘2人と暮らす倉田さん。新型コロナウイルスの接種以後、手足に麻痺が残っている。

(倉田麻比子さん)「(私の) 動きが遅いから下の子がごはん作ると言ってくれたり作ったら夫か長女が片づけてくれたり分業、分担」

元は看護師として働き、休日は家族とボウリングを楽しむなど活発に過ごしていた倉田さん。しかし、去年1月。医療従事者として受けた5回目のコロナワクチンの接種直後、高熱に倒れ、目が覚めると手足に力が入らなくなっていたという。

(倉田麻比子さん)「(2023年) 1月13日に接種してから1月20日に自分で立てなくなっ、自分では40mしか杖を使っても歩けないという状態。あとはけん怠感が強いのと頭痛もありますしめまいもあります」

家族の支えを受けながら治療に励んでいる倉田さん。今年の夏には手足や視覚に障害がある人のクライミング、パラクライミングにも通い始めた。脚を手で持ち上げ、工夫して壁を登っていく。

(倉田麻比子さん)「できないと思っていた事が多かったんですけど、『こうやったらできるんじゃないか』と思考は変わりました」

症状も改善に向かい笑顔を取り戻しつつあった。

「着地点に落とし穴、そんな気分です」再び悪化する
体調

ところが、今年8月。記者のもとに倉田さんからメッセージが届いた。再び体調が悪化したというのだ。

(倉田さん届いたメッセージ)「着地点に落とし穴掘られていて、気づかずにまんまと嵌まってしまった、そんな気分です」

自宅を訪ねるとー

(倉田麻比子さん)「目を開けていられないんです。起き上がれないし、目も開けていられない、頭も回らない。目自体の形で痛い。頭も痛い」

診断は白内障と瞼の痙攣。新型コロナウイルスの副反応のデータベースに似た症例があり、眼科で「これもワクチン後遺症の可能性がある」と指摘されたという。

(倉田麻比子さん)「後から後からいろいろ出てくるので、次は何か出てくるんだろうという不安は常にあり

ます」

接種から１年半以上経っても治らない後遺症。倉田さんは出口を求めこの秋から、自宅から約50km離れた兵庫県宝塚市の病院に通い始めた。担当はワクチン接種後に体調不良を訴える患者を100人以上診察してきた児玉慎一郎医師だ。

（児玉慎一郎医師）「いま一番困っている症状は何ですか、けん怠感？」

（倉田麻比子さん）「けん怠感と目が痛いことです。右目」

長引く症状の原因を探るため、この日は血液検査の結果の確認が行われた。倉田さんには筋肉の動きや免疫の働きに必要なビタミンDが不足していることがわかり、今後、薬や食事などで補充していくことになった。（以下略、引用終わり）

*

兵庫県知事選挙はどうなることやら。パワハラとか、おねだりとか言われた齋藤元彦前知事だが、全部嘘情報（フエイクニュース）だったようだ。マスコミ（神戸新聞と朝日新聞）と兵庫県議会が仕組んだという。そのため、百条委員会の様子も公表せず、嘘がばれる前に知事選挙をやろうとした。当初、その嘘を信じて広めたNHK党の立花孝志氏は、ネットで謝罪し、その嘘をあばくべく、知事選挙に応募して、政見放送や街頭演説で真実を暴露している。

ちなみに、稲村和美氏は、SNSでは、尼崎市長時代に自分の退職金を上げた、金に汚い女といわれている。「予算が無いからと幼稚園減らして、自身の退職金は爆上げした稲村和美さんですやん！／で、暴力団に公金使いましたよね！／これのどこが改革やねん？？」

結果は、齋藤前知事の再当選だった。

*

ご存じの方も多いと思うが、『私たちは売りたいくない!』という本がある。以下、アマゾンのページから。

Amazon 総合 1 位 (2024.9.18-23) - 1 位 感染症内科学
- 1 位 臨床医学一般 - 1 位 文学・評論 (2024.9.18)
7 刷重版 10 月 23 日出来! 累計 16 万部突破!

日本で最もたくさんのワクチンを商品として販売してきた製薬会社。その会社で若手のホープとして期待を集めていた影山晃大氏が、26 歳で突然の死を遂げた。原因は 2 回目のコロナワクチン接種。その後、国からも正式に被害者認定を受けた。

「完全に健康で、あれほど元気だったのになぜ亡くなったのか?」彼の死亡に衝撃を受けた同僚社員たちは、mRNA ワクチンの危険性について広くリサーチを始める。調べるほどにわかったことは、コロナワクチン



れ」の原因は一体どこにあるのか?

をめぐる厚労省の施策が、それまでの医療業界の倫理や常識をズタズタにする異常性に満ちていた事実だった。この「常識外

亡くなった彼や遺族の無念に思いをいたし、有志数名のチームで、〆今後新たなワクチン被害を広めないように〃と、本書の執筆開始を決意した。著者名は「チムK」。亡くなった影山晃大氏の無念を無駄にすまいとの思いによる命名であった。(中略)

仕事としては、安全性に多くの疑義を残すレブリコンワクチンを病院や医院に売らなければならぬ立場だが、自分たちの良心との葛藤は強まるばかり。「この商品だけは売りたいくない!」「家族や子ども、友人・知人にも打たせたくない!」「誇りを持って働いてきた我が社は一体どうなってしまうのか……」

あとがき

◆もう年末かと思った途端、関連付けられたように無意識に一年がさかのぼっていく。不思議なものだ。が、なぜか今年は夏と秋が蘇らない。インパクトがない月日であったのだろうという事にして、ひとまずは今に戻る。(B)

◆11月末、ある会合の忘年会に出席したとき、同郷の先輩と同席した。酒を酌み交わすうち、その先輩は同世代の人が相次いで亡くなり、生まれ故郷が次第に消滅してゆくのではと、時々心配になると話していた。春から冬が来るまで田畑で働いているせいか、そうした思いに駆られることもないが、外から見るとそうなのかなと思った。(T)

◆1年越しの腰痛は、まだ直っていないが、ようやく灯油缶18リットルを持てるようになった。それでも、ストーブに入れるときは、半分くらい空の灯油缶にうつしてからにしている。宅配だと5缶からだったので、これからは、これまでどおり1缶ずつ買える。

先号のSさんのトカゲ、わが家でもみつけた。どこで冬眠しているのやら。(J)

◆桜並木から葉が落ちてしまうと、散歩がてらに見る風景はどことなく薄茶色っぽくなって、今度は緑のマツやカイヅカイブキが存在感を増してきている。ある家の生垣に椿が咲いていたので、いいものを見つけたと思った。これからの散歩はあの椿を見に歩こう。(S)

「海市」 第38号

2024年12月12日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方